

株式会社福村板金

福村 愛理さん

Fukumura Airi

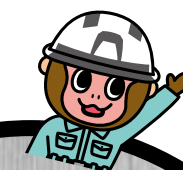
Profile

加賀市生まれ。個人事業で福村板金を立ち上げた父の背中を見て育つ。自慢の父の力になりたいと、金沢星稜大学経済学部に進学し、経営を学ぶ。大学を卒業した2020（令和2）年に福村板金に入社。現在、加賀青年会議所の事務局次長としても活躍。



株式会社福村板金（加賀市）

現社長の福村貴司さんが、2005（平成17）年に起業、2021（令和3）年に法人化。板金加工の大半は外注化し、板金工事に特化している。「小さい会社でも、しっかり人材を育て、加賀市を引っ張っていく存在になりたい」と福村社長。【所在地】加賀市黒崎町ヌ104番地【資本金】500万円【代表者】福村貴司



仕事は楽しい

仕事の夢♡ 人を育て、 会社を育てたい

若い職人さんが働きやすい環境を整え、父が立ち上げた会社を自分が大きくしていきたいです。私らしさも大切に！



建築板金職人までの道のり

◎家業を継ぐべく、小松商業高等学校から金沢星稜大学経済学部に進学



◎（株）福村板金に入社、加賀青年会議所（加賀JC）に入会



◎入社2年目の年に、卒業する母と入れ違いで建設共同高等職業訓練校に入校

「現場ごとに覚えることはたくさんありますが、『日々成長』をモットーに向上心を持って取り組んでいます」（福村さん）

職人の こだわり

休憩時間は、お気に入りのグラスにアイスコーヒーを注ぎ、デザートにもちょっとこだわって



古い納屋をカフェ風に改装した事務所。左官職人の技が光る内装もおしゃれなんです



「ものづくり」だけでなく 「仕事づくり」にも携わる

建築板金は技術が基本の業界ですが、「ものづくり」だけでなく、「仕事づくり」も大切な仕事です。福村愛理さんは、この業界に入って3年目。基礎となる板金技術を学びながら、「仕事づくり」に関わる知識を増やし、人脈を広げているところです。

福村さんが小学生の頃、父の貴司さんが個人事業で福村板金（加賀市）を起業しました。「その当時は、建築板金がどんな仕事なのかは分かりませんでしたが、父が現場を飛び回って忙しく働いていることは分かりました。明るく、前向きに、そして一生懸命に仕事に取り組む父の姿が身近にあったことで、長女である自分が仕事を受け継ぎたいと思うようになりました」

福村さんは経営について学ぶため、小松商業高等学校を経て金沢星稜大学経済学部に進学。卒業と同時に福村板金に就

職しました。

経営の知識を周りから学び、 福村板金の存在を周りに発信

現在は事務作業を行う傍ら、営業として工事の段取りをしたり、職人として現場に出たりと、マルチタスクをこなしています。

営業としての福村さんは、人脈を広げるため、福村板金に入社したタイミングで加賀青年会議所（加賀JC）に入会しました。「『大学を卒業したばかりの22歳の女性协会会员になる』というのは、いろんな点で加賀JC史上初だと言われました」と笑う福村さんですが、さまざまな業界の経営者やビジネスパーソンと交流することで、学ぶことはたくさんあります。

同時に、建築板金業界は世の中であまり知られていないということに気づきました。板金といえば自動車の修理のイメージがあり、「金属板を加工して屋根や外壁などを施工する建築

職種です」と説明することが多いそう。周囲から学び、周囲に発信することで、地域における福村板金の存在感を高めています。

建築板金の専門的な知識・技術を持った 次世代の経営者として成長を

職人としての福村さんは、現場に立ちつつ、週に一度、職業訓練校に通っています。「もともと器用な方ではないので、苦労しています」という福村さん。足場に何度も頭をぶつけてしまうなど、慣れないことはたくさんありますが、お客様のニーズに応えるためには技術的なバックグラウンドが欠かせません。

女性職人の先輩は身近なところにいます。母親のみどりさんです。もともと福村板金の事務を担当していましたが、一念発起して建設共同高等職業訓練校に入校。2級建築板金技能士の資格を取得し、全国建築板金競技大会（建築技術の部）で

6位に入賞した実力者でもあります。

「この業界で女性はまだまだ珍しく、現場に立つと『カッコいいね』とお客様に褒めてもらえることもあります。女性でも普通に活躍できるんだということを、たくさんの人に知ってほしいです」

福村さんは、建築板金の専門的な知識・技術を持った次世代の経営者として、一步一步成長しています。

